**世阿弥研究会　18年7月24日(火)　概要の報告と7月・8月の予定に関して**

**目次**

**一、7月の研究会の概要と講読範囲に関して 1～2頁**

**1)「幽玄之入レ境事」(幽玄の境に入ること)　前半の話題に関して**

**2)「****劫之入用心之事」(劫の入る用心のこと)　後半の話題に関して**

**二、7月末から8月にかけてのお薦めの「能楽公演」や「虫干しの見学会」等の案内に関して 2頁**

**三、次回の「世阿弥研究会」の日程の案内に関して 2頁**

**一、7月の研究会の概要と講読範囲に関して**

近藤です。

7月の「世阿弥研究会」の概要と講読範囲、次回の日程に関して以下の通りまとめを作成いたしましたのでご送付をさせて頂きます。

**1)** **「幽玄之入レ境事」(幽玄の境に入ること)　前半の話題に関して**(214頁6行目～215頁18行目)

(216頁初～217頁11行目)

前半の「幽玄之入レ境事」(幽玄の境に入ること)では、能の「幽玄さ」「優美さ」というものをどのように考えることができるのかということで話題が展開し、河村博重先生からは「片山稽古能」でお稽古をする時にどのようなことに注意をしながら舞いなどの身体の所作をされておられるのかお話を伺いました。

そこから、鎌田先生と木村先生がご覧になられた片山九郎右衛門先生の能「養老　水波之伝」などに関する話題や能における幽雪先生と今の九郎右衛門先生のtypeの違いなど話題が展開されていました。

また「人間国宝」というところにも話題は進み、片山九郎右衛門先生もいずれは「人間国宝」になられるのではないだろうかということや現在観世流能楽師のシテ方で「人間国宝」の候補になられている方は片山九郎右衛門先生の他に東京の浅見真州（真広）先生がおられることなどの話題も展開をされていたところでした。

**2) 「劫之入用心之事」(劫の入る用心のこと)　後半の話題に関して　　　(217頁14行目～219頁7行目)**

「劫之入用心之事」(劫の入る用心のこと)では、「劫」すなわち「良い経験」を積み良い歳の取り方をしていくにはどういていけば良いのかということから、住む場所=環境が人を変えるという話題が展開され、

「目利きのいる都で磨かれる」という都の重要性が語られていました。

そして役者は修練だけでは足りず、良き観客や良き批評家・良きアドバイザーがいなければ磨かれないということがありました。

また博士論文についても世阿弥の言う「面白き」・「珍しき」が必要であり、批評を受け止めてそのことによって自分を鍛え直していくというのか、鍛えていった時に「良き劫」というものを積むことができるが、そういうものがない時にはどんどん古びて「自分は優れている」とそういう思い込みだけで実際には「面白き」も「珍しき」もないものに成り下がってしまっていく。

そこはよくよく注意しなきゃいけないよというようなことが語られておりました。

河村先生からは、都に行った観世と宝生の「上掛リ」と奈良に留まっていた「金春」と「金剛」の「下掛リ」と江戸時代に「金春」のお弟子として能をし始めて一つの流儀になった「喜多流」に関する説明も

して頂いております。

また今の能の多くでは観客の多くがamateurのお弟子さんであるが、世阿弥の頃の観客の多くはそうではなかったことを伺いました。

そのために今の時代は本当の目利きは少なくなっていて、批評眼も落ちてきていること、そのために良き年功を積むことは難しくなってきている状況にあることを伺いました。

また鎌田先生からは、鋭い槍がやってきた時に自分の中にそれを受け止めて刺さるものがあったとしたら、そこから芸をどうやって磨いていくことができるのかという課題に取り組まないといけないということも語られていました。

芸術と芸能の発展と衰退という話しからは、それ(今までの枠組み)を打ち破る人が必ず現れて来ること、今までの枠組みに捕われない新しい創造的な何かを生み出していく人がその次にどう評価されるのかということも問題になっていって、しかしそれが固定されたものになっていくとまたそれが停滞を生み出してしまうことになることなどがありました。

**二、****7月末から8月にかけてのお薦めの「能楽公演」や「虫干しの見学会」等の案内に関して**

7月末から8月にかけてのお薦めの「能楽公演」や「虫干しの見学会」等の案内としては以下のようなものがあります。

1) **片山家の第22回能装束・能面展について**　於、「京都府京都文化博物館」6階

期間、7月27日（金）～7月29日（日）入場無料　時間、10:00～18:00(最終日は17:00まで)。

2) 7月28日(土)**「面白能楽館」**について　於、京都観世会館、13時から17時

3) 8月14日(火) **河村家の「虫干し」**の見学会について　於、河村能舞台、13時から15時

4) 8月23日(木)**「被災地復興～京都からの祈り～」**於、ロームシアター京都　サウスホール10時30分～第一部、18時30分～第二部

5) 8月4日(土)**「能楽大連吟」**於、河村能舞台　午後2時から

6) 10月5日(金)**「鎌田東二第一詩集『常世の時軸』（思潮社）刊行記念トーク＆リーディングイベント」**に関して　19時から20時30分

**三、次回の「世阿弥研究会」の日程の案内に関して**

次回の「世阿弥研究会」は9月25日(火)18時より河村能舞台の楽屋で行われます。

次回のテキストの『世阿弥能楽論集』「花鏡」の講読は続きの219頁(後ろから2行目)の「万能綰二一心一事」(万能を一心につなぐこと)からです。

参考文献、小西甚一(編訳)『世阿弥能楽論集』たちばな出版, 2004,「花鏡」pp.214～219頁.